

生活者主体の持続可能な価値循環モデルを生み出す アクティブワーキング



株式会社インフォバーン

IDL

INFOBAHN DESIGN LAB.



PROBLEM :

企業や地域における課題解決の場で、

- ・目の前の議論や問題設定に、果たして価値はあるのか.....？
- ・ワークショップをしても、その場限りで議論が発散・収束してしまう.....
- ・ステークホルダー（企業や行政、生活者）との接点、関係性が持続しない.....
- ・めいめいの利害や理屈に焦点が向きすぎて、本質的なプロジェクトに発展しない



VALUE FOR :

こんな事業担当者（企業・地域）に

- ・ 地域や組織がもつ、潜在的な課題やポテンシャルを探索したい
- ・ ユーザー起点の本質的な問いから、プロジェクトを起こしたい
- ・ 地域や組織の価値を高めて、巻き込むステークホルダーを増やしたい
- ・ 価値を生み出すための持続的なしくみをデザインしたい

着地型事業創造プログラム「アクティブワーキング」



企業と地域が出会い、ともに稼ぐきっかけを作るプログラム

OUTLINE

ある特定地域に、複数の企業、専門家がリモートワークし、さまざまな視点や文脈から地域の価値を再発見し、再定義するプログラム。探索するだけでなく、プロジェクトを立ち上げるまでのプロセスを設計。

ESSENCE

1. リモートワークのしくみ

(参加の容易性。日常の仕事とフィールドでの新しい価値創造を融合する設計)

2. シンプルなフレームワーク+オプションツアーの組み合わせ

(汎用性とカスタマイズ性の高さ)

3. 事業者、生活者のタッチポイントのフレキシブルな設計 (信頼関係作り)

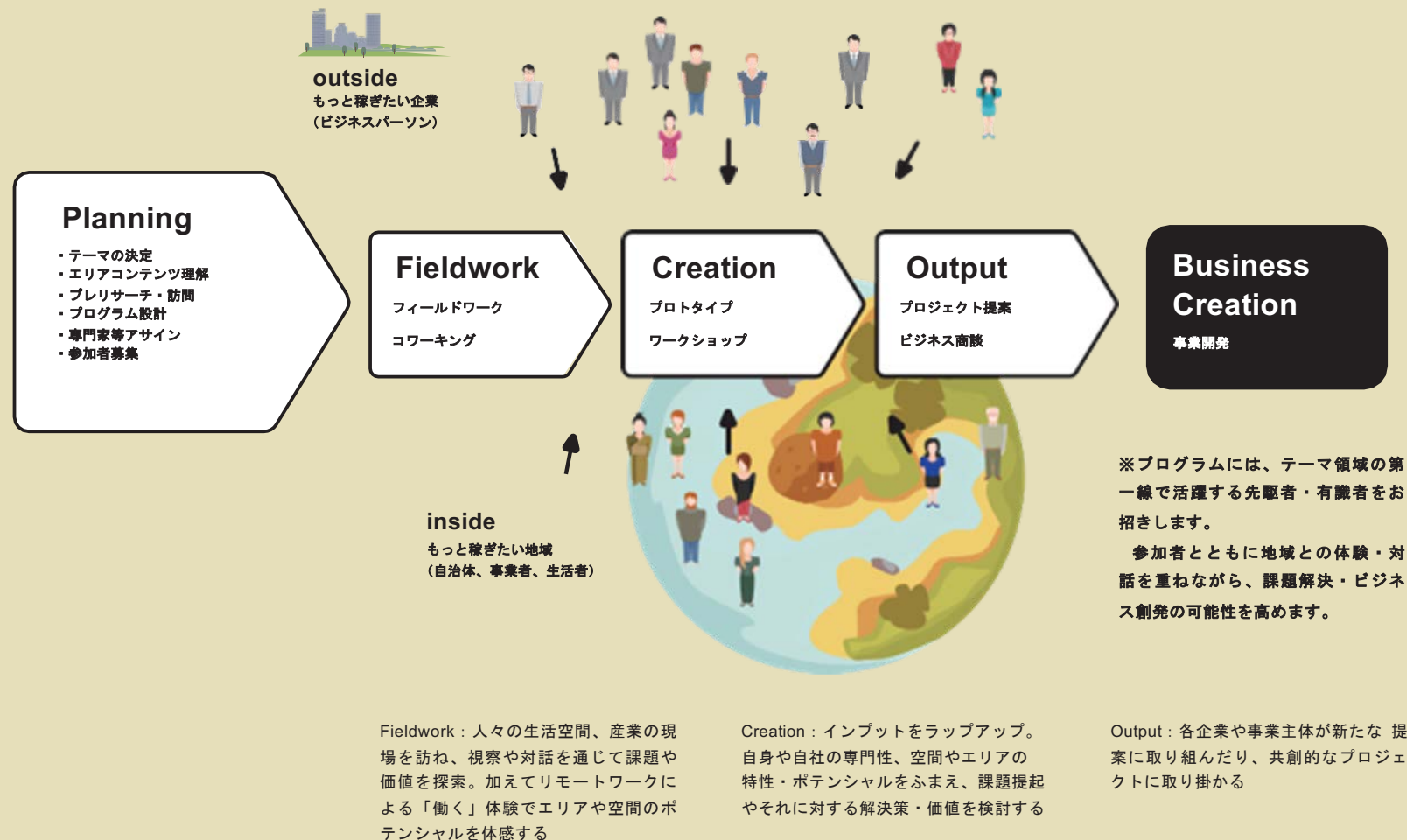
4. 事業化を前提としている

5. 参加者自身の育成に繋がる

(過去の経験では通用しない課題に直面し、自身のナレッジ、スキルの再構築)

PROCESS

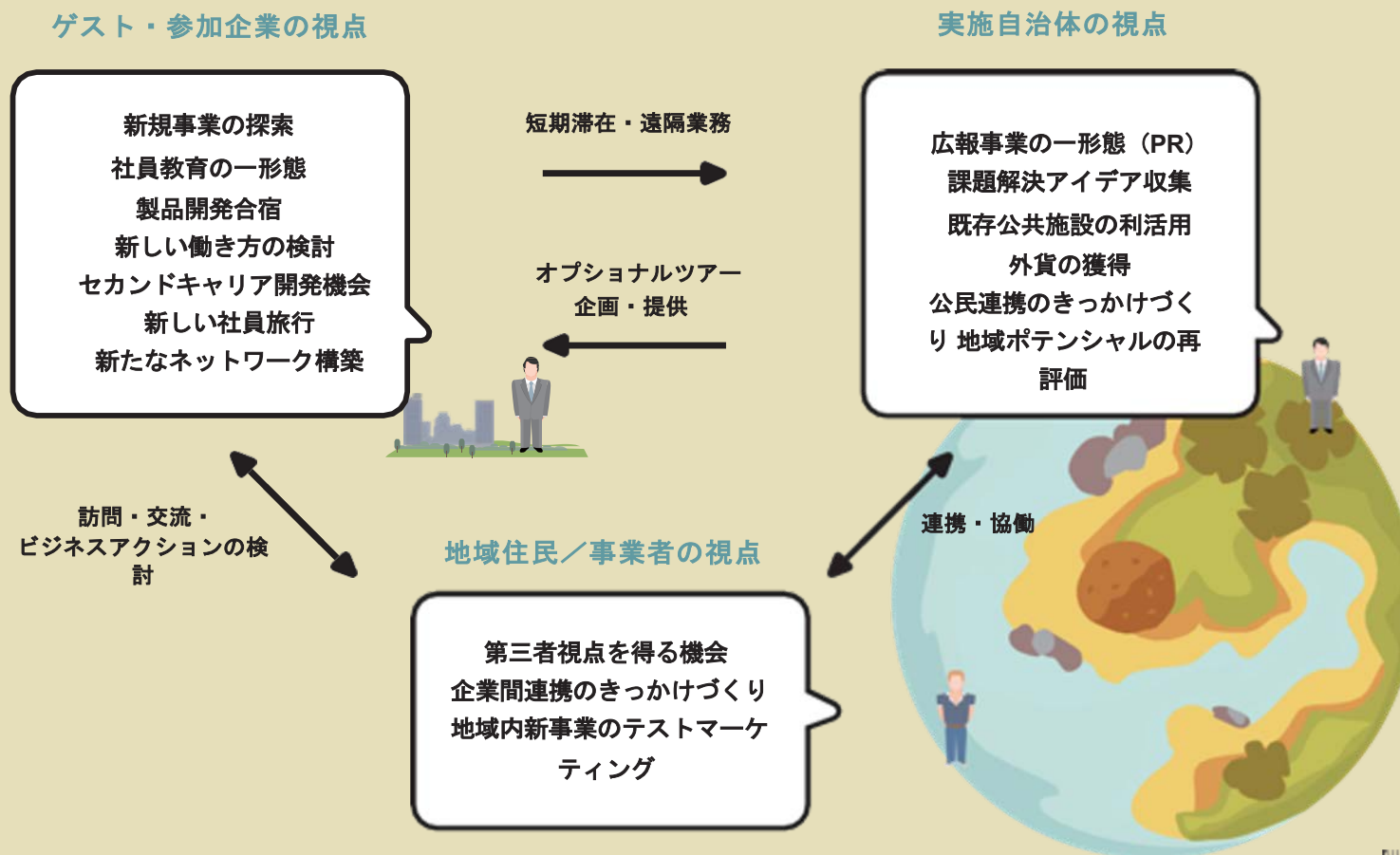
人を集め、構想をカタチにする独自のプロセスで、次の事業開発をサポートします。



VALUE STRUCTURE

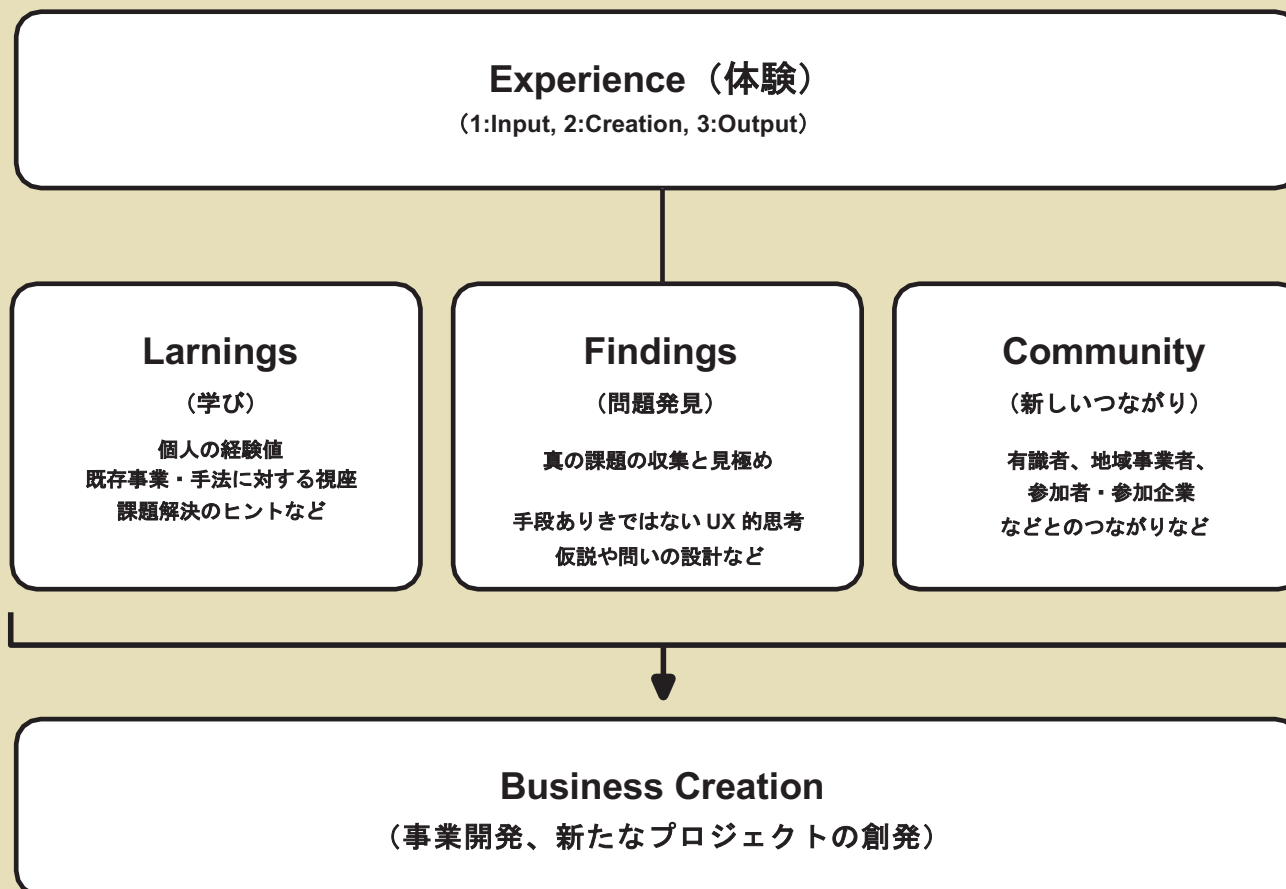
アクティブワーキングプログラムの価値構造

アクティブワーキングは、企業・自治体・地元住民（事業者）、すべてのステークホルダーに三方良しの価値を提供します。



VALUE STRUCTURE

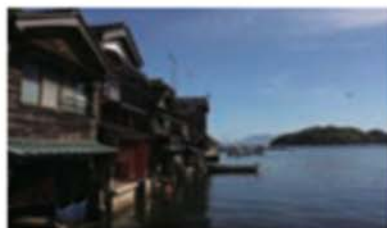
参加ステークホルダーにとっての価値



CASE

※過去、アクティブワーキングは4エリアで開催

(宮崎県日南市、京都府福知山市、京都府丹後エリア(伊根町・与謝野町)、京都府山城エリア(和東町・笠置町・南山城村))



【京都府伊根町】

人口 2,156 人 (2017 年 10 月 1 日現在)
 京都北部の丹後半島の先端部に位置する、
 漁業と観光の町
 海沿いに集落が立ち並ぶ「舟屋」群で有名

【地域課題】

主要産業である「漁業」の活性化、従業員収入 UP
 地元施設(舟屋)の
 コワーキング・サテライトオフィス化のポテンシャル検証



【アクティブワーキング in 伊根町】 具体プログラム (2017 年 11/13-16 日開催)

	DAY1 11/13 (月)	DAY2 11/14 (火)	DAY3 11/15 (水)	DAY4 11/16 (木)
テーマ	基幹産業(漁業)のリデザイン		越境のデザイン	
	地域のグランドデザイン			
午前	午後集合	リモートワーク	フィールドワーク 4, 5 伊根町レクチャー 舟屋フィールドワーク	フィールドワーク 6 与謝野町レクチャー
午後 1	フィールドワーク 1 水産会社	フィールドワーク 3 水産会社	リモートワーク	解散
午後 2	フィールドワーク 2 水産会社	菰池フィールドワーク	菰池フィールドワーク	
夜	ワークショッププロトタイピング	ワークショップ プロトタイピング	ワークショップ プロトタイピング	

結果

「アクティブワーキング in 伊根町」開催後、現在3つのプロジェクトが進行しています。

1. (漁業・観光) 「浜売り」文化の体験価値化プロジェクト
2. (漁業・人材育成) 「漁師キャリアパス」デザインプロジェクト
3. (自転車・エリアマネジメント) 「伊根ナショナルサイクルルート」プロジェクト

「伊根ナショナルサイクルルート」プロジェクト (立ち上げの経緯)

専門家による2nd アクティブワーキング

ショップ・メディア関係者を招き、簡易プログラムを実施
サイクルルートとしてのポテンシャルを探索



- 有識者によるお墨つき
 - ・ 絶景エリアとしてのポテンシャル
 - ・ 経験者ほど好まれるアップダウン
 - ・ 顧客にオススメしたい など
- 初期における事業コストの低さ
 - ・ サイクルラックの設置
 - ・ 施設の利活用 など
- 自転車市場の拡大
 - ・ スポーツ E バイク市場の勃興期
 - ・ 交流人口、観光客増加への期待



一般社団法人
サイクル・リビングラボ設立



京都府との随意契約締結



各種プロジェクト実施・地元説明会
ステークホルダー拡大



地元任意団体発足・自走へ



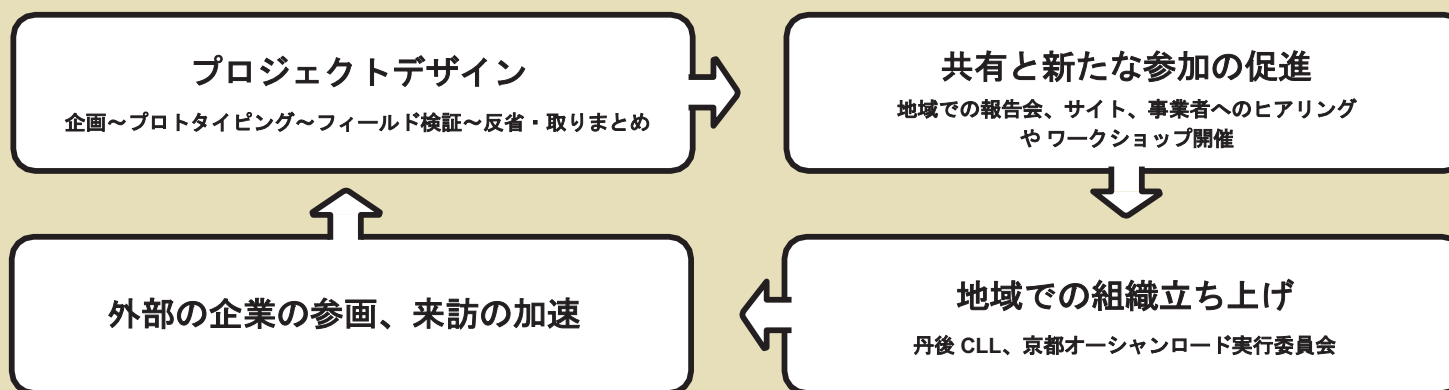
OUTCOME

- ・ 価値が循環するしくみづくり
- ・ 事業者の収益向上

OUTCOME 1

【多様なステークホルダーが参加可能な、ユーザー主体の価値が循環するしくみ】

住民主体のサイクル・リビングラボの創設と、リビングラボによるエイドステーション開発やなど多数のプロジェクトの創出。またリビングラボからさらに地域組織が立ち上がり、ライドサービスを主体的に開発する環境ができ、そのような状況に対して外部企業が参画し始めると言う、価値が連鎖し循環するしくみが形成された。



OUTCOME 2

【事業者の事業成果】

- リビングラボ発プロジェクトによる事業者の売り上げ増

伊根町浦嶋館サイクルステーション化プロジェクトによってサイクリストの来店が前年比6割増加、売り上げ0.5割増加

- 各事業者によるサービス開発

バラエティに富んだ特色ある旅行者向け体験コンテンツの開発・運用

- 地域組織によるサービス開発

地域事業者が連携した組織による複合的なサービス開発



- 企業にとっての事業フィールドの創出

スポーツイベント興行企業やICT企業が、イベント開催や実証実験の候補地として視察開始



BUSINESS CREATION PROGRAM

ACTIVE WORKING